

新規形態異常防除技術および増肉改善による高収益型ハタ類養殖の構築

1 代表機関・研究統括者

国立研究開発法人水産研究・教育機構 宇治 督

2 研究期間：令和6年度～令和8年度（3年間）

3 研究目的

ハタ類の養殖生産量増加を妨げている大きな要因である「形態異常発生」および「餌料費高騰」を解決する技術開発を行い、高収益型ハタ類養殖システムを開発する。

4 研究内容及び実施体制

① 健苗生産システムの開発

スジアラで開発された新たな形態異常防除技術をマハタとヤイトハタに応用し、ハタ類の健康な種苗の生産技術を開発する。

（水産研究・教育機構、愛媛県農林水産研究所、三重県水産研究所、三重県水産振興事業団、沖縄県水産海洋技術センター）

② 増肉改善による養殖生産システムの開発

ハタ類における増肉係数悪化のメカニズムを解明し、増肉係数を低下させる新たな飼養技術を開発する。

（水産研究・教育機構、愛媛県農林水産研究所、三重県水産研究所、沖縄県水産海洋技術センター）

5 最終目標

形態異常防除技術および増肉改善技術により養殖生産コストを25%以上削減した高収益型ハタ類養殖システムを開発する。

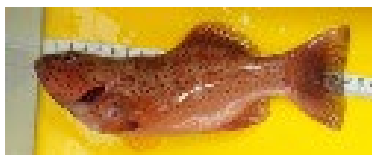
6 期待される効果・貢献

高収益型ハタ類養殖システムを開発することで、養殖業者の利益を増加させ、持続可能な環境にやさしいハタ類養殖の生産量を増加させることに貢献する。

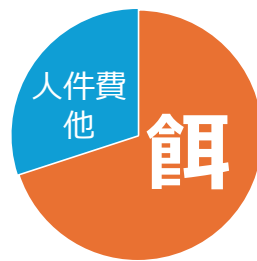
研究の目的（背景）

戦略的養殖品目であるハタ類の養殖では

- ① **形態異常の発生**による歩留まりの悪さと
- ② **餌代の高騰**が大きな課題



形態異常（前彎症）



生産コスト

最終目標

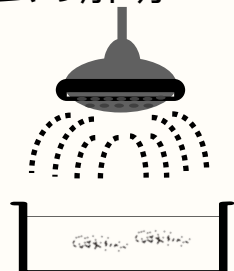
形態異常防除および増肉改善技術により養殖生産コストを25%以上削減した高収益型ハタ類養殖システムを開発する

研究の内容

形態異常防除のための

① 健苗生産システム開発

全面シャワー方式による
形態異常防除とそのメカニズムの解明



形態異常が少ない
健苗種苗生産技術の確立

餌代高騰対策の

② 養殖システム開発

魚種	波長	日長	補償成長
スジアラ		24h 24L0D	X
ヤイトハタ		24h 8D 16L	X
マハタ		24h 24L0D	X

期待される効果・貢献

- ・ ハタ類で低環境負荷・高収益型の養殖システムが実用化
→ハタ類養殖の収入増加および生産量増加に貢献。
- ・ 増肉係数改善技術はマダイなど他の魚種に応用